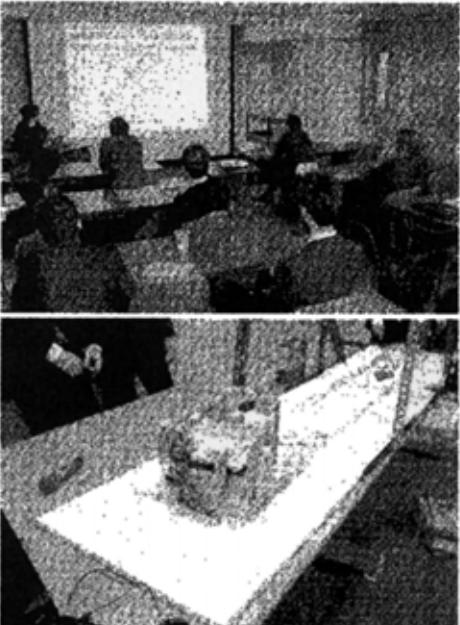


## 自動車産業の将来担う学生たちが熱戦



チムはせ

東京都市大学 MDK

車両との接触による歩行者の死亡事故では、頭部損傷による死者数が46・8%を占める。ワゴン系車種の普及に伴い、最近では歩行者の路面への頭部接触リスクが高まっている。そこで、路面衝突自体を防止す

優秀賞は、来年5月に韓国で開催される国際大会に向けた日本地域大会へのシード権が与えられる。

■ 東京都市大学大学院工学  
研究科（東京都市大学M  
K）「路面・車体部品衝突  
止を目的とした歩行者保護均  
衡システム」

た。新しい発想と現在の重畠な問題を取り扱った事案で、コンセプトとしては十分だ。ただ、実現化に向けてのリニアリティーが不足しており、今

上にアイエンツとして表示される。このため、緊急時にも迅速にAEDの位置を把握し対応することで年間1450人を救えると試算している。

西チムの発表、実演後の  
表彰式では推進委員長の高橋

■ 東京大学 大学院 工学系  
研究科（チームはやと）  
「自動車バッテリーを利用  
した自動体外式除細動器  
(AED) の開発」

原性の心肺機能停止が原因となる死者は減少傾向にあるが、これまでAEDは病院や公共施設などへの設置がほどんどで、一般的な普及は未だ低い。そこで、自動車のバッ

（アンドロイド）をアラートフォームとするアプリは、一定位置にAEDの設置場所とAED搭載車両の現在位置をマップ上にアイコンとして表示する。このため、緊急時にも

以上の衝突を想定し、拘束性能を確認した。

## 2チームに優秀賞

自技会安全技術テサインコンへ国内決勝大会

自動車技術会（会長・浜田昭雄ボンダ副社長）は2月28日、「2012年学生安全技術デザインコンペティション国内決勝大会」を同会事務所で開催した。同コンペティションは、大学・大学院の学生チームが独自に設定した自動車関連の安全課題と解決へのアイデアを発表し、その重要性や実用性、発展性や斬新さを競う大会で、2004年から年1回開催している。自動車産業の将来を担う技術者の育成を目指した同会の活動として、全日本学生フォーミュラ大会と両輪をなすものだ。また、2年に1度開催される国際大会への登竜門としても位置付けられており、国内決勝大会での最優秀チームは国際大会に向けた国内審査会が免除される。今回の国内決勝大会に臨んだ大学院2チームのプレゼンテーションとデモンストレーションの様子を紹介する。

テリードを動力としてAEDを運載することで、一刻を争う状況に応じて、車の走行態勢を迅速に対応でき、またその地理的範囲を拡げるなど、アイデア。車検時に合わせてAEDのメンテナンスも定期的に行えるほか、自動車ハンドリードと兼用することで年間約5億円のコスト削減も可能とする。

チームはやとでは、AEDを友クシーやゴミ収集車などの商用車への搭載の可能性などを実験したほか、AED搭載

（しんじ）で頭部障害リスクの低減を目指す。システムは、歩行者を感知し衝突回避が不可能な場合に車両前面部に側面から拘束装置を開闢する。

この記事・写真等は日刊自動車新聞社の許諾を得て転載しています。  
無断で複製等、著作権を侵害する一切の行為を禁止します。

東京都市大学グループ  
学校法人 五島育英会